

都市の リスクマネジメント

第147回

福祉避難所のマニュアル整備を

跡見学園女子大学教授

鍵屋 一

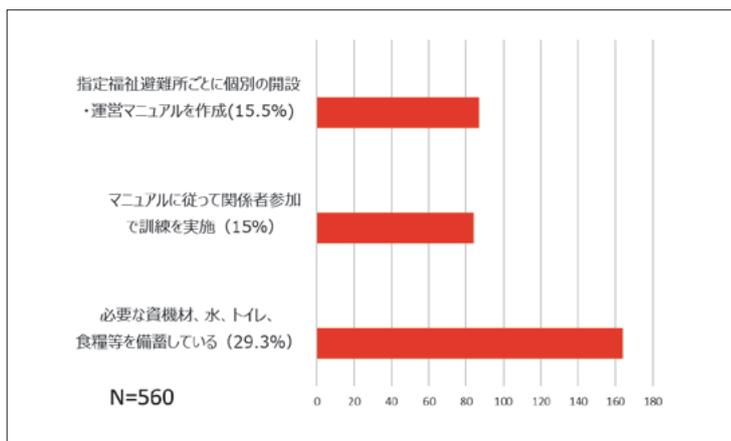


福祉避難所の整備状況

5月号に続いて、福祉避難所の整備を訴えたい。(一財)日本防火・危機管理促進協会は、令和3年度に福祉避難所の現状について調査を行い、全国の1741市区町村のうち560市区町村から回答を得た(回収率32.2%)。主な結果は、図のとおり、福祉避難所ごとに個別の開設・運営マニュアルを作成している市区町村は15.5%、マニュアルに従って訓練をしているのが15%、必要な資機材、水、トイレ、食糧などを備蓄しているのが29.3%であった。

8割以上の福祉避難所が、個別のマニュアルを作成しておらず、訓練もしていない。これでは、高齢者等避難の発令時や、災害直後の福祉避難所の開設はとてできない。高齢者や障がい者も、いったんは学校などの指定避難所に行けばよいと考えるかもしれないが、例えば認知症高齢者、精神障がい者、自閉症などの障がい児およびその家族など

図 指定福祉避難所のマニュアル・訓練・備蓄状況



出典:「避難所外避難者の支援体制に関する調査研究」
2022年3月 一般財団法人日本防火・危機管理促進協会

は、大勢の人がいる避難所にはとても行けない。その結果、最悪の場合、要配慮者が避難を躊躇して逃げ遅れたり、困難な避難生活での関連死につながったりする。

国は、2021年5月に福祉避難所の確保、運営ガイドラインを改定し、「要配慮者が日頃から利用している施設へ直接の避難を促進する」としている。

本記事をご覧の首長や危機管理監には、ぜひ福祉避難所担当に実情を確認いただきたい。
福祉避難所ガイドラインとマニュアル

国のガイドラインは、災害時の対応については、ガイドラインという性格上、簡素に書かれている。例えば、避難者の受付については以下のとおりである。

○ 受付時に体調や感染症について聞き取り、適切な避難スペースに案内する。このため、施設の管理(所有)者と調整し、感染症対策も考慮した、避難所内の空間配置図、レイアウト図などの施設の利用計画をあらかじめ作成すること。

Risk Management

しかし、現場ではファーストコンタクトとなる受付が非常に重要で、ここで混乱すると施設管理者と避難者の信頼関係が崩れやすくなる。(一社)福祉防災コミュニティ協会が実施する研修マニュアルでは、以下のように丁寧に書かれている。

(4) 受付開始

受付は、避難者と福祉施設職員の初めての出会いの場です。避難者は大きな不安を抱えながら来ていますので、落ち着いて対応することが大切です。

□ 一般避難者には原則として小中学校などの避難所に行くように要請します。

(一時的な滞在を許可する場合があります。)

□ 避難者カードによる受付を行います。

□ 多数の避難者がいるときや受付スタッフが少ないときは、名前を聞き取って吊り下げ名札にカタカナで名前を書いて、首にかけてもらいます。

※ 避難者に「避難者カード」を記載してもらいますが、難しい場合は施設職員が聞き取りをしながら記入します。

※ 名簿作成時には、特別な食事への配慮(アレルギーがある、乳幼児でミルクや離乳食が必要など)、医療的な配慮・介助が必要か否か、持病、障がい、常用薬などを可能な限り申告してもらいます。

※ 避難者の安否照会、食料や物資の数量は、避難者名簿の避難者数を基に行うので、非常に重要です。

※ 福祉避難所の専有面積は、一坪(3.3㎡)あたり1名のため、「毛布の幅」を目安に1名の占有場所とします。家族等同行者用スペースにも配慮します。なお、コロナ禍等感染症流行期においては4㎡以上を目安とします。

避難者カード		福祉避難所名	
フリガナ			
氏名			介護の必要 有・無 (詳細は、備考欄にお書きください。)
性別	男・女	年齢	
住所			
家族等の連絡先	氏名 電話番号	住所	
備考	※ 配慮が必要な場合、体調不良の場合、病院の薬を服薬中の場合等は具体的に記入してください。 ※ その他		

避難者カード

マニュアルの無償提供

(一社)福祉防災コミュニティ協会は、この「福祉避難所開設・運営マニュアル(ひな型)」を無償提供している。また、市区町村で必要なことはほとんど同様のため、その様式集も

提供する。これは(一財)消防防災科学センターの委託を受けて、のべ15県で実施してきた研修資料である。なお、本年度も7県で実施する。

出水期に当たり、市区町村や福祉避難所、関係団体は、ぜひマニュアルを入手し、要配慮の避難者受け入れ態勢を整えていただきたい。私たちがわずかでも貢献できるならば、この上なく誇りに思う。

福祉避難所開設・運営マニュアル
ダウンロード先のリンク
<https://fukushi-bousai.jp/manual.html>

筆者プロフィール

鍵屋 一 (かぎやはじめ)

1956年秋田県男鹿市生まれ。早稲田大学法学部卒業。板橋区防災課長、板橋福祉事務所長、福祉部長、危機管理担当部長(兼務)、議会事務局長等を経て2015年3月退職。京都大学博士(情報学)。2015年4月跡見学園女子大学観光コミュニティ学部教授。法政大学大学院・名古屋大学大学院兼任講師。内閣府「高齢者等の避難に関するサブワーキンググループ座長」など政府委員。内閣府地域活性化伝道師、(一社)福祉防災コミュニティ協会代表理事、(一社)危機管理教育研究所主席研究員など。著書に『図解よくわかる自治体の地域防災・危機管理のしくみ』『ひな型で作る福祉防災計画』など